



Mercedes-Benz

※これは、2017年10月25日にダイムラー社から発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

Press Information

東京モーターショー出展概要

2017年10月25日

自動運転シティカーやフォーミュラ1テクノロジーを応用したクルマなど、多数のモデルがアジア初登場

メルセデス・ベンツでは今回の東京モーターショー（会期：2017年10月27日～11月5日開催）において、アジアプレミアとなる数多くのモデルを取り揃え、モビリティの未来への展望をご紹介します。このうち、フォーミュラ1ハイブリッドテクノロジーを搭載するショーカー、メルセデスAMG Project ONEは、「ドライビングパフォーマンスの未来」を先取りしたものになります。smart vision EQ fortwoは、電気自動車による超高効率かつフレキシブルな、短距離公共交通のためのソリューションを提案します。さらに、メルセデスのコンパクトカー初の100%電動EQコンセプトカーとなるコンセプトEQAに加え、世界で初めて燃料電池とバッテリーを組み合わせた電気自動車のGLC F-CELLプレプロダクションモデルをご覧ください。

ダイムラー社取締役メルセデス・ベンツ・カーズ営業、マーケティング統括のブリッタ・ゼーガーは次のように述べています。「日本はメルセデス・ベンツにとってきわめて重要な市場であり、2013年からは4年連続で過去最高を記録しています。メルセデスは本年も、9月末までの日本国内累計販売台数が5万台以上と、同期間として過去最高の実績を納め、プレミアムブランドとして販売台数No.1のポジションを維持しています。今回のラインアップからもお分かりのように、コンパクトなシティカーからメルセデス史上最もパワフルなマシンまで、そしてバッテリー電気駆動から、燃料電池、プラグインハイブリッド、さらには、生粋のフォーミュラ1テクノロジーにいたるまで、メルセデスでは将来性ある多くの分野においても優位を確立することを真剣に目指しています」。

2 シーターのスーパースポーツカー、メルセデス AMG Project ONE は、最新の超高効率フォーミュラ 1 ハイブリッドテクノロジーを、サーキットから公道へと初めてほぼそのままに応用したパフォーマンス ハイブリッドであり、最高出力は 1,000hp 以上、最高速度は 350km/h 以上です。ハイパフォーマンス プラグイン駆動システムは、フォーミュラ 1 から直接採用した、統合度が高く、高度にネットワーク化されたユニットです。ハイブリッドターボ内燃エンジン 1 基と電気モーター 4 基から構成されています。

smart vision EQ fortwo—最高水準の都市モビリティを実現

多様なカスタマイズと最大限のフレキシビリティ、低燃費を兼ね備えた短距離公共交通—smart vision EQ fortwo はまさにこのことを実現するもので、そのために群知能と需要予測能力を駆使します。この自動運転コンセプトカーは、ユーザーが希望する場所まで直接迎えに行きます。また、すべての操作をスマートフォンで行うことができます。このため「借りるクルマを取りに行くための移動」は、過去のものとなり、お互い通信し合い接続されたクルマが常に路上を走る状態となります。利用が拡大するとともに、都市部の交通量や駐車スペースの必要数が減っていきます。また、ダイムラーグループの乗用車では初めての、ステアリングホイールとペダルがないクルマです。さらに、CASE 戦略の 4 本の柱—Connected（コネク）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（カーシェアリングおよびサービス）、Electric（電気自動車）—を、完全に実現した初めてのクルマでもあります。

コンセプト EQA—コンセプトカーに最大限の魅力を注入

コンセプト EQA は、メルセデス・ベンツのコンパクトカーとして初めての 100%電動 EQ コンセプトカーです。優れた乗り味と操作性を実現するのは、フルタイム四輪駆動システムと 2 基の電気モーター。拡張可能なバッテリーコンポーネントの採用により、システム出力を 200kW 以上まで高めることが可能となっています。また、航続距離は、メルセデス・ベンツの最新技術により、約 400km を達成しました（搭載するバッテリーの容量により異なります）。デザイン面では、継ぎ目やラインを大幅に減らしたほか、前部に仮想フロントグリルとして機能するブラックパネルを採用したことで、メルセデス・ベンツのデザイン哲学「官能的純粋性」を一貫して追求した最新の事例となりました。

今回メルセデス・ベンツが発表する新型 GLC F-CELL プレプロダクションモデルは、排ガスゼロのクルマを実現する過程において大きなマイルストーンです。メルセデス・ベンツ がお送りする、技術名称「EQ Power」を冠するこの最新の電気自動車（今後量産を予定）は、きわめて刺激的なクルマとなっています。というのも、これは人気モデル GLC をベースに、革新的な燃料電池とバッテリーテクノロジーを世界で初めて融合させる100%電気駆動プラグインハイブリッド SUV であり、水素に加え、蓄えた電気によっても走行できるからです。バッテリーと燃料電池のインテリジェントな連携を実現するとともに、燃料を速やかに補給できる GLC F-CELL は、日常の足としての優れた実用性を備え、長距離走行にも適したクルマとなるでしょう。水素タンクの容量は 4.4kg で、NEDC 航続距離 437*km を達成しています。これに、大型リチウムイオンバッテリーによる EV 航続距離 49km (NEDC)が加わります。最高出力は 147kW と、ダイナミックな走りとゼロエミッションを同時に実現します。

ダイムラー社取締役メルセデス・ベンツ・カーズ営業、マーケティング統括のブリッタ・ゼーガーは次のように述べています。「燃料電池は、『航続距離が長い』、『燃料補給時間が短い』、『排出されるのが水だけ』という圧倒的なメリットを備えています。燃料電池技術はバスや他の大型商用車にも大きなチャンスが与えられます。必要なインフラストラクチャーが整備されるマーケットならどこでも、例えば日本でも、必ずや将来有望な技術となる、と確信しております。」